



1998年ベルリン国際映画祭正式出品

第2回釜山国際映画祭招待作品

山形国際ドキュメンタリー映画祭 YIDFFネットワーク企画特別上映

第6回1997年度日本映画撮影監督協会JSC賞本賞受賞

第3回平和・協同ジャーナリスト基金賞選考委員賞受賞

文部省選定



チエルノブイリ。ベラルーシ。いのちの大地……。



暖かくなったら、仕事にとりかかろう。
種を蒔こう。
玉葱、ライ麦、キュウリ、じゃがいも。
私はベラルーシ語で話すよ。
暖かくなるように。
この冬はもううんざりだよ。
暖かくなるまで待つだけだよ。

ナージャの村

надежда

企画・監督／本橋成一

製作統括／鎌田實

製作／神谷さだ子

小松原時夫

撮影／一之瀬正史

編集／佐藤真

音楽／小室等

語り／小沢昭一

サスナフィルム第1回作品

1997年 日本・ベラルーシ共同製作

COCHA FILM

ナージャの村

надежда



ポーカ
ナージャの父親。酔っ払っては大声で歌い、娘たちからコケにされているが、本当は信頼されている父さん。



ポクサー
昨年母親を亡くしてから一人暮らし。自分の仕事は「ビジネス」だと吹聴し、ぶらぶらしている。



ニコライ
一人暮らしなのに、周囲の空き家6軒分を囲って住んでいる変わり者。エセーニンの詩が大好きだ。



クルチンとオリガ夫婦
この村に生まれた幼なじみ。ここ以外に住むことは考えられないと、移住を拒んでいる。



チャイコ
22年前に妻を亡くし、3人の子供の独立を機に母の待つ故郷に帰ってきた。



チャイコパーバ
82歳だが、畑仕事もしっかりこなす。山羊のシロを誰よりかわいがっている。



旧ソ連（現ウクライナ共和国）
チェルノブイリ原子力発電所

が大爆発を起したのは、1986年4月26日のこと。大気中に拡散した放射性物質は北半球全体に広がり、特に隣接したベラルーシ共和国は高度の汚染地帯となった。中でもゴメリ州は汚染がひどく、ホットスポットと呼ばれる地域が点在している。

強制移住区域に指定された場所からは、大勢の人々が故郷を去って行った。

ナージャの住むドゥヂチ村もそのひとつ。事故前には300世帯以上が暮らしていたが、今では遮断機によって閉鎖され「ゾーン」と呼ばれている。村は地図からも消えた。しかし、移住を拒み故郷に暮らし続ける6家族がいた。



ナージャ
8歳。ウラジミール家の5人きょうだいの末娘。人のいなくなった村の道路や学校の校舎が、いつもの遊び場だ。

映像は「いのちの関係」からしか生まれません、と思う。

『ナージャの村』の監督は、写真家の本橋成一である『炭鉱』で第5回太陽賞を受賞。その後は、サーカスや魚河岸など市井に生きる人々の写真を撮り続けてきた、ドキュメンタリーの写真家だ。

彼がチェルノブイリを初めて訪れたのは1991年のこと。病いに苦しむ子どもたちを初めて病院で見たとき、放射能測定器がけたたましく鳴る《石棺》の前に立ったとき、「二度と来るべきところではない」と思ったという。しかし、広い大地の上で自然と共

に生きている人々と出会い、彼の気持ちは一変する。「写真は人間関係である」という信念のもと、汚染地域の家庭を訪ね歩いて共に食事をし、語り合っては撮影を続けた。そして5年間の作品をまとめた写真集『無限抱擁』で写真協会賞、写真の会賞を受賞。

『ナージャの村』は、本橋成一の作品の延長線上に生まれた映画だ。告発するドキュメンタリーではない、あたらしい形のドキュメンタリー。写真家ならではの美しい映像で綴る、いのちの大地の物語である。

ドキュメンタリーの精鋭たちが、新しいドラマに挑んだ。

監督を支えたのは、ベテランのスタッフたちである。撮影は『しがらきから吹いてくる風』『あらかわ』など、ドキュメンタリー分野で活躍する一之瀬正史、現地録音は菊池信之が担当。編集には『阿賀に生きる』の監

督佐藤真、語りは小沢昭一、音楽は現地に2回訪れたこともある小室等が書き下ろした。

撮影に一年間を費やし、写真家の夢と映画スタッフの力が結実して、『ナージャの村』は誕生した。

ドゥヂチ村はユートピアのようだった。馬車に乗り、キノコを採り、歌を口ずさむ人々。人類の歴史が始まって以来、私たちはずっとこういう暮らしをしてきたはずだ。近代社会などせいぜいせいぜいここ三〇〇年のことに過ぎない。『ナージャの村』には、ことさら放射能汚染を説明する映像はない。私は世紀末に起きたこの悲劇を通して、それでもなお未来へと向かういのちあるものの営みを描いてみたかったのだ。

監督・本橋成一

企画・監督/本橋成一 制作総括/藤田寛 制作/神谷さだ子、小松原時夫 撮影/一之瀬正史 編集/佐藤真 音楽/小室等 語り/小沢昭一
録音/菊池信之 監音/滝澤修 字幕/太田直子 台詞構成/西条井文彦 撮影助手/山田武典 編集助手/長谷川 健 コーディネーター/ドミートリー・ストレリツォフ、タチアナ・ブジリーナ
車輻/アトナリー・ビツニック スチール撮影/大西暢夫、明石雄介 演奏/小室等、佐久間順平、竹田裕美子、田代耕一郎、西沢幸彦
制作デスク/佐藤由美子 クリエイティブ/プロデューサー/渡邊倫彦 クラフィックデザイン/盛谷則夫 宣伝/土岐小百合、菅谷里、菅聖子
制作協力/日本チェルノブイリ連帯基金、ベラルーシ共和国文化省、在日ベラルーシ大使館、ロシア映画家協会 製作・配給/ササフィルム (03-3227-1870) Nadya's Village/1997/ヴィスタサイズ/カラー/118分

シネ・ヌーヴォ梅田で大ヒット、劇場をかえて

3/28(土)よりアンコールモーニング&レイトショー!!

特別鑑賞券 1500円好評発売中!!

シネ・ヌーヴォ

3/28(土)~4/3(金) AM.10:30 4/4(土)~17(金) PM.8:20
(当日/一般1800円、学生1500円、中・小・シニア1000円)
※前売券は、劇場窓口、シネ・ヌーヴォ梅田、チケットぴあ、チケットセゾン、各プレイガイドにてお求めください。

地下鉄中央線「九条駅」6番出口下車
大阪ドーム方向へ徒歩2分
TEL06-582-1416

